

## 都市づくりの将来像

# 生きる実感！ ふれあいの郷土<sup>さと</sup> はまどんべつ

浜頓別町のまちづくりは、総合計画である「第4次浜頓別町まちづくり計画 リード21」の将来像『生きる実感！ふれあいの郷土 はまどんべつ』を目指して進められています。

本計画でも「リード21」の将来像を受け継ぎ、都市づくりの将来像として設定し、豊かな自然環境に恵まれたこの浜頓別で、すべての人が、その自然の生の実感を肌で感じ、快適な生活をおくり続けることのできる、みどり豊かな快適環境の都市づくりを目指します。

## 都市づくりの基本目標

都市づくりの将来像の実現に向けて、都市計画マスタープランでは、都市計画分野としての具体的な目標として以下の4つの基本目標を掲げました。

## 豊かな自然環境の保全と活用

オホーツク海、クッチャロ湖、ペニヤ原生花園等をはじめとする豊かな自然環境は、私たち町民の宝であるとともに、将来の町民へと引き継ぐべき貴重な自然資源であります。

この都市にうるおいを与える雄大な自然環境を保全しながら、その自然環境を交流を育む空間としても活用、共生していく都市環境を目指します。

市街地を取り巻く良好な自然環境との調和に配慮しながら、人口規模に見合った適正な規模の市街地形成を目指していくとともに、地域の特性を活かした効率的かつ適正な土地利用を図っていくことを目指していきます。

また、市街地の形成と連動した効率的かつ機能的な都市施設の配置を推進し、快適で機能的な市街地を目指します。

## 快適で機能的な市街地の形成

## すべての人にやさしい生活環境の創出

これからの都市づくりは、高齢者や身障者等に配慮した施設整備を推進することが必要となっているとともに、多様化する住民ニーズに対応した都市づくりを進めていかなければなりません。

そのため、バリアフリーからユニバーサルデザインへと視点を広げ、高齢者や身障者を含めたすべての人が安心して快適に住み続けることができる、人にやさしい生活環境の創出を目指します。

都市づくりに限らず、まちづくりの主役はそこに暮らしている町民であり、町民が、それぞれの地域の中で、元気に暮らすことが、まち全体の活気につながります。

町民が本マスタープランを自らのものとし、まちづくりの機運を高めつつ、実施・進めていくために、多様な形態での都市づくりに係る情報の提供や参加機会を設ける等による、都市づくり意識の醸成と住民参加システムを構築していくことを目指します。

## 共に創る都市づくり

# の基本構想

## 将来の都市構造

長期的な展望に立って、本町における将来の都市構造を次のとおり設定しました。

### 骨格

骨格については、主要な交通骨格と河川骨格を設定し、交通骨格は都市間主要道路の「国道238号」、「国道275号」、「主要道道豊富浜頓別線」、「一般道道頓別港線」の4路線で構成し、河川骨格は「頓別川・クッチャロ川」、「豊寒別川」の2水系で構成し、これらの要素を将来にわたって都市の骨格として位置づけていきます。

### 拠点

拠点は、大きく4つの核に区分し、市街地中心核を商業拠点、憩いと交流の拠点、公共サービス拠点とこれらの拠点の連携による一体的拠点としての観光・交流活動拠点といった4つの拠点によって構成し、レクリエーション中心核は、観光レクリエーション拠点、スポーツ・レクリエーション拠点の2つの拠点によって構成します。

また、水産業中心核は、漁業拠点、水産加工拠点の2つの拠点によって構成し、その他の拠点として本町の工業振興に寄与する工業拠点を位置づけ、各拠点の機能充実を図っていくものとします。

### 軸

軸については、本町の地理的条件と土地利用の現状などから、広域観光軸と市街地内交流軸の2つの軸を位置づけ、広域観光の振興と、賑わいと活気、憩いとるおいがある中で心のあたたかい交流の促進を図る軸としていきます。

### 骨格

主要な交通骨格	
	国道238号
	国道275号
	主要道道豊富浜頓別線
	一般道道頓別港線
河川骨格	
	頓別川・クッチャロ川
	豊寒別川

### 拠点

市街地中心核	
	商業拠点
	憩いと交流の拠点
	公共サービス拠点
	観光・交流活動拠点
レクリエーション中心核	
	観光レクリエーション拠点
	スポーツ・レクリエーション拠点
水産業中心核	
	漁業拠点
	水産加工拠点
その他の拠点	
	工業拠点

### 軸

広域観光軸	
	国道・道道及び広域サイクリングロード
市街地内交流軸	
	浜頓別アムティ公園と国道・道道

将来都市構造図